

進化する 補聴器

補聴器に続々、新機種が登場している。ハイテク化で小さくなり、従来の隠す方式からファッション性を持たせたり、手術で頭に埋め込む最新型も。最新の補聴器事情を探った。

(荻野貴生)

従来、イヤホンと本体が別々だった補聴器は、一体化した耳かけ形が登場。さらにイヤホン自体に集音機能を持たせ、耳の穴に差し込む耳穴形（挿耳形）と、小型化が進んでいる。耳穴形は、機種によってはオーダーメイドできる。

各機種とも音を拾って増幅するアナログ方式から、特定の音を遮断し聴きたい

難聴の種類で選定／一定期間 試聴を

ズリダクション）がついている機種なら、これらの不要な音を遮断する。さらに自動環境認識システム機能があれば、静かな時と騒音のある時、音楽鑑賞など状況に応じ、機器が最も聞きやすい状態を自動的に判断する。携帯電話を使った時に、雑音をカットするタイプもある。

購入する人もいる」と話す。四月からは埋め込み型の補聴器の治験も行われている。手術でチタン製のホルトを耳の後ろに埋め込み、これに集音機を付けるだけ。音の振動を頭蓋骨経由で内耳に伝達させる。

と幅広い。箱形は安い種類が少なく運動には向き。耳掛け形や耳穴形は小さいけれど高価で、音声出力が弱く、操作性に難があったり、耳あかが詰まりやすいものもある。

最大手の岩崎電子（札幌）の中山政典・聴能営業部長は「髪の毛の色に合わせて⑤彩り鮮やかな耳かけタイプの補聴器（耳の穴に差し込む耳穴形）に汗のため故障することも多かったが、最近では防水型もあり、入浴や水泳に使える」と話す。

に汗のため故障することも多かったが、最近では防水型もあり、入浴や水泳に使える

できる。道内では北大病院耳鼻咽喉科で三人が治験中。数年後には実用化される見込みだが、難聴の種類によっては適応外になる。市販の補聴器の価格は、二万円台から五十万円以上



⑤彩り鮮やかな耳かけタイプの補聴器（耳の穴に差し込む耳穴形）